

inspiration of Japan



特集: Inspiration of Japan

2010年、新しいANAブランドがテイク・オフします



ANA VISION 2009

第60期 第2四半期のご報告
(2009年4月1日～2009年9月30日)

スタッガード配列による「全席通路側」のビジネスクラス。
空の旅を自由にアレンジできる、理想のシート配列です。

ANA

A STAR ALLIANCE MEMBER



裏表紙のアンケート
にご協力ください！
抽選で「クオカード」
または「ANAマイル」
をプレゼント！

株主の皆様へ

より抜本的な経営体質改善とコスト構造改革を断行します

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、大幅赤字となった第1四半期の決算を受け、7月以降、需要に応じた機材への変更や各種需要喚起策に加え、大幅なコスト対策に取り組んでまいりました。旅客事業では、新型インフルエンザの影響が一段落したことや、9月のシルバーウィーク効果等により旅行需要を中心に回復傾向がうかがえましたが、ビジネス需要の落ち込みは続き、貨物事業でも荷動きに回復の兆しはあるものの単価の下落が大きく、大変厳しい決算内容となりました。

需要の完全な回復には当初予想以上に時間を要する見込みであり、当初計画から900億円の減収となる見通しです。期初に設定した730億円規模の「緊急対策プラン」に加え、7月からはさらに300億円規模の「緊急収支改善策」を掲げ、これらを着実に実行しておりますが、収入の落ち込みが大きく、2010年3月期の通期業績予想を修正させていただきました。また、未定とさせていただいて



おりました当期の配当につきましても、当期利益を確保することが困難な情勢となったため、無配とさせていただきたく存じます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げるとともに、来期の復配に向け経営努力を重ねてまいりますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

さて、こうした厳しい状況下ではありますが、10月の沖縄貨物ハブ基地開設や、来年からの新しいANAブランドの展開など、次の時代を念頭に2010年の首都圏空港再拡張に向け、さまざまな準備を進めていきます。また、常に需要動向に対応して確実に利益を生み出せる体質に変革するために、進行中の収支改善策に加え、より抜本的なコスト構造改革を断行し、1,000億円規模の収支改善を目指す所存です。

世界の航空産業全体が、今まさに激動の時代を迎えています。当社は、「アジアを代表する航空企業グループとなる」という経営ビジョンを早期に達成し、よりグローバルなステージにステップアップしていく所存です。安全で快適な空の旅をご提供するために、これからも常に挑戦し続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、ご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2009年11月

代表取締役社長

伊東 信一郎



連結業績ハイライト

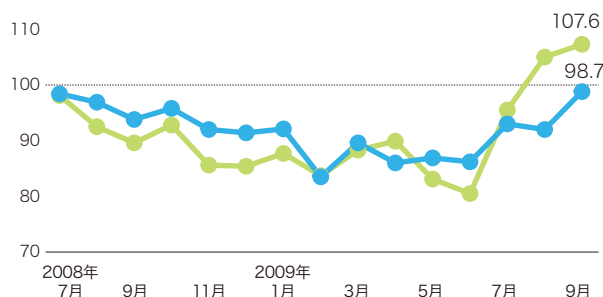
第2四半期累計(2009年4月1日～2009年9月30日)

- 世界同時不況と新型インフルエンザ流行の影響で航空需要は大きく落ち込み、営業収入は6,118億円(前年同期比81.2%)に減少しました。
- 「緊急対策プラン」と「緊急収支改善策」を着実に実行していますが、大幅な減収をカバーするには至らず、営業損失282億円、経常損失415億円、当第2四半期純損失253億円となりました。

旅客数の伸び率の推移(前年同月比較)

単位: %

国際線旅客数は8月以降、前年同月を上回っています。



※ 金額は表示単位未満の端数を切り捨てています。

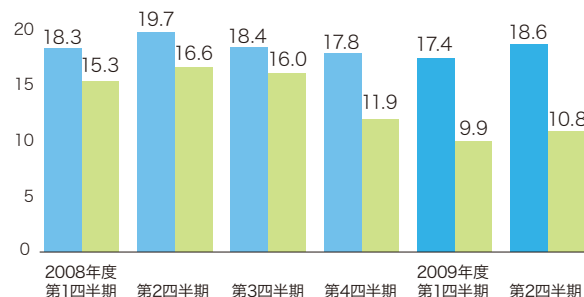
経営成績 単位: 億円	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	増減	前年同期比 (%)
営業収入	7,533	6,118	△1,415	81.2
営業費用	7,034	6,400	△634	91.0
営業利益又は損失(△)	498	△282	△781	—
営業外損益	△103	△132	△29	—
経常利益又は損失(△)	395	△415	△810	—
特別損益	△8	0	8	—
四半期純利益又は純損失(△)	220	△253	△474	—
EBITDA※	1,051	274	△776	26.1

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

旅客キロ当たり運賃収入※の推移

単位: 円 / 旅客キロ

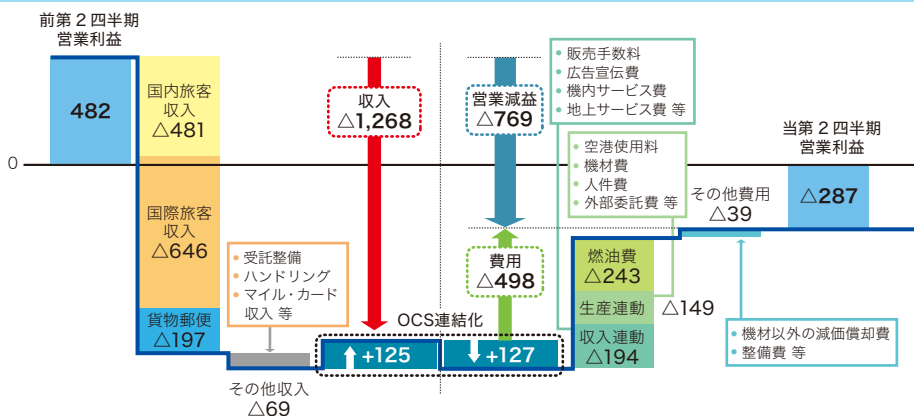
国際線の旅客キロ当たり運賃収入は、ビジネス需要の回復の遅れ、旅行者の低価格志向、燃油サーチャージの廃止などで大きく低下しています。



※ 旅客キロ当たり運賃収入 = 旅客収入 ÷ (旅客数 × 運航距離(キロメートル))

前第2四半期と当第2四半期の航空運送事業収支の変動要因(6カ月累計比較)

単位: 億円



当第2四半期の航空運送事業は、前年同期より1,268億円の減収となりましたが、費用が498億円減少したため、769億円の営業減益となりました。

なお、当期より海外新聞普及株式会社(OCS)が連結対象に加わり、営業収入が125億円、営業費用が127億円それぞれ増加したため、実質的費用削減効果は625億円となりました。



ANAグループ連結財務諸表

第2四半期累計(2009年4月1日～2009年9月30日)

連結損益計算書 単位:億円	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
営業収入	7,533	6,118
営業費用	7,034	6,400
営業利益又は損失(△)	498	△282
営業外収益	76	52
営業外費用	179	185
経常利益又は損失(△)	395	△415
特別利益	10	21
特別損失	18	20
税引前四半期純利益又は純損失(△)	387	△414
法人税等	167	△158
少数株主損失(△)	△0	△2
四半期純利益又は純損失(△)	220	△253

営業収入

前年度下半期からの世界同時不況により落ち込んだ需要の回復が遅れる中、第1四半期には新型インフルエンザの影響もあり、大変厳しい状況で推移し、営業収入は前年同期より1,415億円減少して6,118億円となりました。

営業費用

収支改善のための「緊急対策プラン」と「緊急収支改善策」を着実に実行し、各種費用の削減を進めた結果、営業費用は前年同期より634億円減少して6,400億円になりました。

営業利益(損失)

前年同期より781億円の減益となり、282億円の営業損失となりました。

キャッシュ・フロー

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、713億円の収入超過となりました。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、主に航空機関連の設備投資等を行った結果、2,240億円の支出超過となり、フリー・キャッシュ・フローは1,526億円の支出超過となりました。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金やリース債務の返済を進める一方、新規借入による資金調達や新株式の発行を行った結果、1,937億円の収入超過となりました。

※金額、数量は表示単位未満の端数を切り捨てています。

※決算に関する資料は当社ホームページでもご覧いただけます。

ANA 検索 → IR情報 → 決算情報 → 決算短信

事業別セグメント情報		前第2四半期	当第2四半期
単位:億円		2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2009年4月1日から 2009年9月30日まで
航空運送事業	国内線	3,912	3,421
	旅客	3,725	3,244
	貨物・郵便	185	175
	手荷物	1	1
	国際線	2,092	1,257
	旅客	1,656	1,009
	貨物・郵便	432	245
	手荷物	3	2
	その他	664	721
	営業収入計	6,668	5,400
営業費用	6,186	5,688	
営業利益又は損失(△)	482	△287	
旅行事業	営業収入	1,024	875
	営業費用	1,021	881
	営業利益又は損失(△)	2	△6
その他の事業	商事・物販	524	478
	情報通信	117	124
	その他	107	88
	営業収入計	748	691
	営業費用	737	682
	営業利益	11	8
	営業収入計	8,442	6,967
セグメント間消去	908	849	
連結営業収入	7,533	6,118	
営業費用計	7,945	7,252	
セグメント間消去	910	851	
連結営業費用	7,034	6,400	
連結営業利益又は損失(△)	498	△282	

連結キャッシュ・フロー計算書 単位:億円	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	264	713
投資活動によるキャッシュ・フロー	△434	△2,240
財務活動によるキャッシュ・フロー	559	1,937
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,190	1,843

事業別セグメント情報

航空運送事業

営業収入

・国内線旅客

富士山静岡空港から沖縄、札幌線を開設したほか、需要に見合った増減便を実施しました。需要喚起のため「旅割」「スカイメイト割引」の値下げ、シニア層向け「シニア空割」の新設、各地域と連携したキャンペーンの実施等を行い、9月のシルバーウィーク期間には顕著な効果が見られたものの、旅客数は前年同期比90.7%、収入は同87.1%となりました。

・国際線旅客

低需要路線の減便や機材の小型化等を進める一方、関西－金浦線の新設など需要動向への対応を推進し、夏季には羽田－グアムチャーター便を運航するなどプレジャー需要の喚起に努めました。7月から燃油サーチャージが廃止されたこともあり、8月以降、旅客需要は前年同期を上回りましたが、第1四半期の低迷によって旅客数は前年同期比93.6%、収入はビジネス需要低迷等による販売単価の大幅な低下もあり同61.0%となりました。

・貨物・郵便

国内線貨物は「ゆうパック」は堅調に推移しましたが、輸送実績、収入とも前年同期をやや下回りました。国際線貨物は本年2月を底に中国等アジアを中心に回復の動きが見られ、アジア地域での販売促進に努めました。また、海外新聞普及株式会社を連結子会社化し、既存子会社と合併させエクスプレス輸送を強化しましたが、競争激化や燃油サーチャージの値下げにより収入は前年同期を大幅に下回りました。

営業費用

燃料価格下落と消費量削減により燃油費を243億円削減するとともに、「緊急対策プラン」「緊急収支改善策」の実行により、人件費や外部委託費の削減等で生産連動費用を149億円、国際線旅客販売手数料の廃止や広告伝費の抑制等により収入連動費用を194億円削減した結果、営業費用は前年同期より498億円減少しました。

営業損益

前年同期より769億円の減益となり、287億円の営業損失を計上しました。

旅行事業

国内旅行、海外旅行ともに景気悪化と新型インフルエンザの影響による需要低迷により、収入は前年同期比85.5%となり、6億円の営業損失となりました。

その他の事業

空港店舗を中心とした顧客サービス事業の低迷などにより、収入は前年同期比92.3%となり、8億円の営業利益となりました。

輸送実績			前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前年同期比 (%)
国内線	旅客数	(万人)	2,228	2,020	90.7
	座席キロ※1	(億席キロ)	304	295	97.1
	旅客キロ※2	(億人キロ)	195	179	91.9
	利用率※3	(%)	64.2	60.8	△3.4
	有効貨物トンキロ※5	(百万トンキロ)	—	979	—
	貨物輸送重量	(千トン)	235	229	97.5
	貨物トンキロ※6	(百万トンキロ)	229	227	99.2
	郵便輸送重量	(千トン)	19	16	83.8
	郵便トンキロ	(百万トンキロ)	18	16	88.2
貨物重量利用率※7	(%)	—	24.9	—	
国際線	旅客数	(万人)	233	218	93.6
	座席キロ※1	(億席キロ)	142	134	94.7
	旅客キロ※2	(億人キロ)	103	97	94.0
	利用率※3	(%)	72.9	72.4	△0.6
	有効貨物トンキロ※5	(百万トンキロ)	—	1,332	—
	貨物輸送重量	(千トン)	197	186	94.5
	貨物トンキロ※6	(百万トンキロ)	915	819	89.6
	郵便輸送重量	(千トン)	8	9	114.0
	郵便トンキロ	(百万トンキロ)	44	51	115.5
貨物重量利用率※7	(%)	—	65.4	—	

※1: 座席キロ＝座席数×運航距離(キロメートル)
※2: 旅客キロ＝旅客数×運航距離(キロメートル)
※3: 利用率＝旅客キロ÷座席キロ
※4: 国内線旅客実績には、IBEXエアラインズ、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、スターフライヤーとのコードシェア便の実績を含む。
※5: 有効貨物トンキロ＝有効(搭載可能)貨物重量(トン)×運航距離(キロメートル) なお、旅客便については、床下貨物室(ペリー)の有効貨物重量に各区間距離を乗じた数値。床下貨物室の有効貨物重量には貨物・郵便のほか、搭乗旅客から預かる手荷物搭載の有効搭載重量も含む。
※6: 貨物トンキロ＝貨物輸送重量(有償)×運航距離(キロメートル)
※7: 貨物重量利用率＝(貨物トンキロ÷郵便トンキロ)÷有効貨物トンキロ
※8: 国内線貨物および郵便の実績には、北海道国際航空、スカイネットアジア航空とのコードシェア便の実績を含む。
※9: 国際線貨物および郵便の実績にはコードシェア便実績および地上輸送実績を含む。
※10: 国際線貨物および郵便実績にはABX Air社委託運航便(2009年3月終了)の実績を含む。
※11: 国内線深夜貨物定期便の実績を含む。
※12: 国内線、国際線ともに不定期チャーター便の実績を除く。

連結対象会社の状況
(2009年9月30日現在、2009年3月期末比較)

・連結子会社 72社(新規1社、除外5社)

・持分法適用会社 24社(新規1社、除外1社)

連結貸借対照表 単位:億円	前期 2009年3月31日現在	当第2四半期 2009年9月30日現在
資産の部		
流動資産	4,466	5,061
現金及び預金	596	1,026
営業未収入金	891	920
有価証券	844	1,526
商品	59	58
貯蔵品	511	559
繰延税金資産	732	479
その他	829	490
固定資産	13,142	14,289
有形固定資産	10,802	11,699
建物及び構築物	1,040	1,033
航空機	6,331	6,368
土地	458	515
リース資産	546	490
建設仮勘定	2,062	2,946
その他	363	344
無形固定資産	629	643
投資その他の資産	1,710	1,946
投資有価証券	547	543
繰延税金資産	815	1,051
その他	346	351
繰延資産	1	9
資産合計	17,610	19,360

資産の部

増資手取金などにより流動資産が前期末より594億円増加したことに加え、新規航空機導入のための前払金の支払いなどで固定資産が1,147億円増加。総資産は1,749億円増加しました。

負債の部

流動負債が前期末より392億円減少する一方で、新規の借入等により固定負債が664億円増加した結果、負債は271億円増加しました。なお、有利子負債は643億円増加して9,616億円となりました。

純資産の部

四半期純損失の計上や配当金の支払いの結果、利益剰余金が前期末より273億円減少しましたが、増資等により株主資本が1,137億円増加したことに加え、繰延ヘッジ損益が296億円改善したことなどから、純資産は1,477億円増加しました。

連結貸借対照表 単位:億円	前期 2009年3月31日現在	当第2四半期 2009年9月30日現在
負債の部		
流動負債	5,031	4,638
支払手形及び営業未払金	1,489	1,505
短期借入金	465	291
1年内返済予定の長期借入金	811	949
1年内償還予定の社債	300	100
リース債務	117	120
賞与引当金	123	123
独禁法関連引当金	161	161
その他	1,562	1,386
固定負債	9,321	9,985
社債	1,350	1,350
長期借入金	5,469	6,380
リース債務	457	424
退職給付引当金	1,169	1,193
役員退職慰労引当金	5	4
その他	868	632
負債合計	14,352	14,624
(有利子負債)	8,972	9,616
純資産の部		
株主資本	4,031	5,169
資本金	1,600	2,313
資本剰余金	1,257	1,969
利益剰余金	1,238	965
自己株式	△63	△79
評価・換算差額等	△812	△498
その他有価証券評価差額金	13	34
繰延ヘッジ損益	△825	△528
為替換算調整勘定	△0	△4
少数株主持分	39	65
純資産合計	3,257	4,735
負債純資産合計	17,610	19,360

減価償却費と設備投資 単位:億円	前第2四半期 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	当第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
減価償却費	553	557
設備投資	690	1,537



当期(2010年3月期)の業績見通し

2009年4月1日～2010年3月31日

当期の見通し

前年度下半期から継続する需要低迷とお客様の低価格志向に伴う単価下落は想定以上に激しく、新型インフルエンザの影響もあり、上半期の収入は当初見込みよりも大きく減少しました。回復には当初予想以上に時間を要し、厳しい収入環境が下半期も継続するとの前提を置かざるを得ない状況となっています。

このような状況の下、期初からの730億円規模の「緊急対策プラン」に加え、7月からは300億円規模の「緊急収支改善策」を掲げ、通期での黒字確保を目指してきましたが、これらを完遂した上でも上半期実績および下半期の見通しを踏まえると大幅な減収による収益の悪化は避けられず、通期連結業績予想を右記の通り修正しました。

連結業績見通し

単位:億円

	当期(通期)		増減額
	4月30日 発表の見通し	10月30日 発表の修正見通し	
営業収入	13,500	12,600	△ 900
営業利益	350	△ 200	△ 550
経常利益	50	△ 450	△ 500
当期純利益	30	△ 280	△ 310
1株当たりの配当金(円)	未定	0	—

連結業績予想の前提

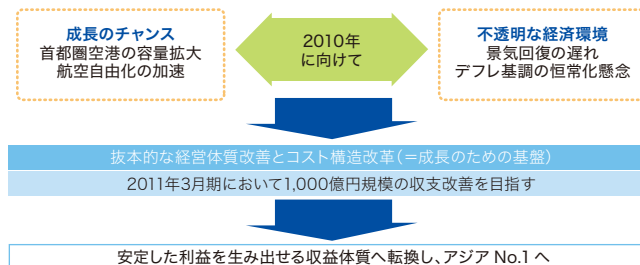
単位:%

		当期(通期)	
		国内線	国際線
座席キ口	前期比	96.3	95.2
旅客キ口	前期比	95.7	101.4

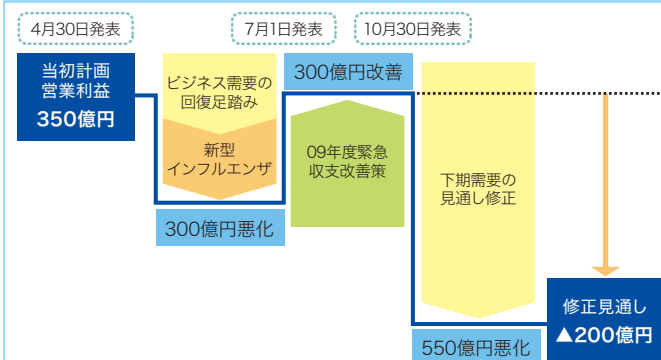
※ 上記予想は本報告書作成時点(10月30日)において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本報告書作成時点における仮定を前提としています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

来期(2011年3月期)の展望

2010年には羽田、成田両首都圏空港の拡張という当社にとって見逃すことのできない成長のチャンスが到来します。しかし、景気には依然先行き不透明感がありデフレ基調の定着も懸念されます。当社は、厳しい経営環境を踏まえつつ新たな成長を果たすべく、抜本的な経営体質改善とコスト構造改革を進めていきます。



下半期の需要見通しに基づき、利益計画を下方修正



当期の配当について

当初の予想を超える収入の落ち込みにより、各種コスト削減策を講じたものの当期利益の確保が難しくなったことから、無配とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、業績回復ならびに復配に向け経営努力を重ねてまいりますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。



特集

Inspiration of Japan

2010年、新しいANAブランドがテイク・オフします

ANAグループは2010年2月(予定)より、成田ーニューヨーク線[※]に就航するボーイング777-300ER型機を皮切りに、日本のエアラインがこれまでに体験したことのない空の旅を実現する、新しいANAブランド「Inspiration of Japan(インスピレーション・オブ・ジャパン)」を展開していきます。その概要をご紹介します。

お客様と共に最高の歓びを創る

ープロダクト&サービスの「質」の改革

ANAグループは「品質、顧客満足、企業価値でアジアを代表する航空企業グループになる」という経営ビジョンの達成を目指し、「人」が織り成すANAブランド「あんしん、あったか、あかるく元気!」を推進しています。そしてこのたび、さらなる品質向上によって、もっとお客様にご満足いただけるように、「プロダクト」と「サービス」の革新に取り組みました。

※ 運航当初は隔日運航となります。

※ 2010年以降に導入するボーイング777-300ER型機以外の機材については座席仕様が異なります。

※ 欧米路線以外の路線についてはサービス内容が一部異なります。詳しくはANAホームページ(<http://www.ana.co.jp>)でご確認をお願いします。



時間と空間を自由自在にコーディネートできるビジネスクラスの新シート

Inspiration of Japan

新鮮な驚きや、発見がある。日本のエアラインが、これまでに体験したことのない空へ。世界に先駆けて新しい空の旅を目指すInspiration of Japan。

そのブランドシンボルである、あざやかなオレンジ色の3つのドットのひとつひとつには、ANAが目指す空の旅への思いが込められています。

イノベティブ

乗るたびに新しい発見があり、常に気持ちがワクワクするような体験をしていただけるように。

際立つ個性

他にはない独自の価値を創造し、期待を超えた歓びをお届けできるように。

モダンジャパン

日本発の新鮮なひらめきや発想を、細やかな心遣いとともにお伝えできるように。

すべては心のおもむくまま。
自分流で過ごすための価値ある時空。
一くつろぐ、味わう、仕事と向き合う、そのすべてが思いのままに…。
何もかも、意のままにできる心地よさを。それが”MyStyle, MySpace”
乗るたびに新しい発見がある。
ビジネスクラスの新しいスタイルです。



目的地に着くまでに、アイデアをまとめたい。

時間と空間を自由自在にする「スタッガード・シート配列」を採用

日本の航空会社で初めての「スタッガード・シート配列(表紙写真)」を採用。シートを互い違いに配列し、どの席からでも直接通路に出ることが可能になりました。周囲を気にすることなく、眠る、



プレゼンに備えて、ぐっすり眠って疲れを取りたい。

食べる、楽しむ、仕事をする。時間と空間を自由自在にコーディネートできるようになりました。

就寝時にはシートがフルフラットの完全なベッドスタイルになり、心地よい眠りをお約束します。さらに、収納スペースをたっぷりと確保できるよう、シューズはシートの下に、バッグはオットマンの下に専用スペースを設けました。

好きな時間に、好きなものを自分流に組み合わせて—eat & drink

お召し上がりの時間も、メニューの内容も、ボリュームも、お客様の思い通りに、気分やコンディションに合わせて自由にお選びいただけます※1。通常のコースメニューや軽食などもご用意しています。

※1 搭載数には限りがあるため、ご希望に添えない場合があります。

※2 写真はイメージです。メニューの内容は季節、路線、機材等により異なります。



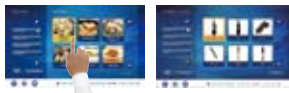
豊富なアラカルトメニュー※2

フライト時間に合わせて、たっぷりエンターテインメントが楽しめます—enjoy

160チャンネルもの映画、ビデオ、音楽、ゲームなどのエンターテインメントに加え、ミール(お食事)やドリンクなどのオーダー※3や機内販売品のご購入なども、指先ひとつでスムーズに。クラス最大級の17インチタッチパネル式液晶ワイドスクリーンで、新しいAVOD (Audio Video On Demand) 機能をご利用いただけます。さらにユニバーサルタイプのパソコン電源、iPod※4コネクターやUSB端子接続により、ご自身でお持ち込みになった動画(iPodのみ可能)、写真、音楽もお楽しみいただけるなど、機内での楽しみ方が画期的に広がります。

※3 2010年4月からサービス開始予定です(ミールオーダーはファーストクラス、ビジネスクラスのみ)。

※4 iPodは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。



食のエキスパートとのコラボレーションメニュー※2

やさしい味の家庭料理が好みなら、ほっとする味「栗原さんちのごはん」

料理家・栗原はるみさんが提案する、ご自宅のようにくつろいでお召し上がりいただける家庭料理。



やさしい味の家庭料理

食の新しい発想「燻」

燻製おつまみなどをそえたBar空間も演出。



燻製メニュー

くつろぎの一献に新提案。日本酒の未来を追求する極上体験、仙台伊達家御用蔵「勝山」

「幻」シリーズと銘打った、純米大吟醸「暁」※5、甘口純米大吟醸「元」、純米吟醸「猷」を通じて、さまざまなシーンで日本酒の味わい方をご提案。

極上の日本酒



※5 有料でのご提供になります。

ファーストクラス

一旅の始まりから終わりまで、ただ一人のためにカスタマイズされた空。



約束されたプライベートな時間をお過ごしただけのファーストクラス

工夫を凝らしたデザインでジャケットや小物類などもすっきりと収納



※ 写真はイメージです。メニューの内容は季節、路線、機材等により異なります。

空港から機内まで約束されたプライベートな時間。木目調で高級感と落ち着きのある空間を創造して、最高の眠りをお約束する心地よいスペースを実現しました。そして、吟味を重ねた食材を洗練されたメニューでご用意。23インチタッチパネル式液晶ワイドスクリーンでは、さまざまなエンターテインメントをお楽しみいただけます。

Inspiration of Japanは世界に広がる

2010年2月(予定) にスタートする Inspiration of Japanは、成田ーニューヨーク線*から長距離欧米路線へと順次拡大していきます。

ANAグループはお客様の満足向上のための努力を続け、一歩ずつ確実に歩んでいきます。21世紀のグローバルなマーケットを、現在から未来に向かう、ANAの新たなフライトにご期待ください。

※ 運航当初は隔日運航となります。

※ 2010年以降に導入するボーイング777-300ER型機以外の機材については座席仕様が異なります。

※ 欧米路線以外の路線についてはサービス内容が一部異なります。詳しくはANAホームページ(<http://www.ana.co.jp>)でご確認をお願いします。

ANA SUITE LOUNGE

成田空港のANA LOUNGE Firstをリニューアル。選ばれたお客様のために、装いも新たに、プライバシーを確保できる個室感の高い“パーソナルルーム”を新設します。ファーストクラスおよびANA「ダイヤモンドサービス」メンバー専用のラウンジです。(2010年2月予定)



※ パーソナルルームのイメージです。

PREMIUM ECONOMY

プレミアムエコノミー

—プレミアムと呼ぶにふさわしい、ゆとりの42インチ。

これまでより約10cm広くなったシートピッチ。プレミアムエコノミーでは、ワンランク上の空の旅をお楽しみいただけます。シートは後部座席を気にせずリクライニングできるFixed Back Shell (フィックスド・バック・シェル)^{※1}スタイルを採用。さらに江戸切子をモチーフとした可動式の隣席とのディバイダー（仕切り）など、ゆとりの時間にふさわしいデザインや機能性を追求しています。

各シートにユニバーサルタイプのパソコン電源やiPod^{※2}コネクター、USB接続端子も装備。さらにクラス最大級の12インチタッチパネル式液晶ワイドモニターやノイズキャンセリングヘッドフォンもご利用いただけます。

※1 座席が前方にスライドしながらリクライニングする構造。

※2 iPodは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。



プレミアムエコノミーシート



ワンランク上の空の旅をお楽しみ
いただけるプレミアムエコノミー



クラス最大級の12インチ
液晶モニター

ECONOMY CLASS

エコノミークラス

—34インチ、エコノミークラスにいままでにない快適さ。

これまでのエコノミークラスより、シートピッチを約7.5cm拡大。シートは後部座席を気にせずリクライニングできるFixed Back Shell^{※1}スタイルを採用しています。スライドするヘッドレスト、3段階に動くフットレスト^{※3}など、快適に過ごしていただくために、細部にまで気を配りました。

クラス最大級の10.6インチタッチパネル式液晶ワイドモニター、ユニバーサルタイプのパソコン電源、iPod^{※2}コネクターやUSB接続端子、専用カップホルダーなどの装備に至るまで、さまざまなニーズに応え、さらに利便性を高めました。

※3 エコノミークラスの最前列および非常口直近列にはフットレストはございません。

旧タイプ31インチ
34インチ(約86cm)



エコノミーシート



いままでにない快適さを提供
するエコノミークラス



クラス最大級の10.6インチ
液晶モニター

PREMIUM
ECONOMY

ECONOMY
CLASS



新しい機内食、J-Menu登場

丼、定食、弁当、麺といった、日本のエアラインならではのオリジナリティあふれる個性的なメニューをシリーズでご提供いたします。

※ 写真はイメージです。メニューの内容は季節、路線、機材等により異なります。



情報ダイジェスト

詳細は →「プレスリリース」または「ANAわかりやすいニュース配信」でもご覧になれます。

2009年9月～10月

10月 1日 今年で48回目、「赤い羽根共同募金」に協力

国内線でも国際線でもワンランク上の有料お食事サービスを導入

国内線プレミアムクラスでご好評いただいているお食事メニュー（昼・夕食）を一般席でも有料サービスとして提供開始（路線・時間帯・数量限定）、朝食時間帯の「おにぎりセット」の提供路線も拡大しました。また、国際線では欧米長距離路線のビジネスクラスでご提供している軽食メニューを、プレミアムエコノミーとエコノミークラスでも有料でお楽しみいただけるサービスを拡充しました。（バンコク・シンガポール・ホーチミン・ムンバイ・ホノルル路線は12月1日より実施予定）

有料のお食事サービスメニューの例

国内線



昼・夕食 1,800円



おにぎりセット 300円

国際線



中華点心 若鶏の焼売と
蒸し餃子 700円



広東風豚の角煮まんじゅうと
もち米肉だんご 700円



ねぎ味噌ラーメン 700円

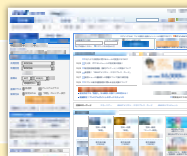


いか飯 700円

※ 他社が運航するコードシェア便ではご利用いただけません。
※ 個数限定の有料サービスとなります。
※ 写真はイメージです。

10月 4日 ANAホームページが見やすく便利にリニューアル！

全体の画面幅を広げて、航空券だけでなく、旅の計画から手配までスムーズにご利用いただけるように、画面デザインとコンテンツの配置を改善しました。



10月 25日 羽田ー北京旅客便が就航

成田ー北京定期便と併せて、東京と北京の移動がさらに便利になりました。

運航ダイヤ（現地時間、運航機材はボーイング767-300ER型機）

2009年10月25日～2010年1月15日

1285便 羽田 9:30 → 北京 12:35 1286便 北京 15:55 → 羽田 20:15

2010年1月16日～2010年3月27日

1285便 羽田 10:30 → 北京 13:35 1286便 北京 16:40 → 羽田 21:00

10月 26日 「沖縄貨物ハブ&新・航空ネットワーク」始動

日本を含むアジア各国の中心に位置する地理的優位性と、24時間稼働する那覇空港の特長を生かした国際貨物基地がオープンしました。羽田、成田、関西、ソウル、台北、上海、バンコク、香港のアジア域内主要8都市を深夜便貨物専用機でスピーディーに結びます。

お知らせ

機内持ち込み手荷物について

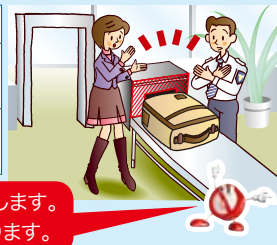
2009年12月1日より

● 機内に持ち込めるお手荷物のサイズが国内航空会社間で統一されます。

● 出発保安検査場でお手荷物の大きさを確認いたします。

下記サイズを超えるお手荷物はカウンターにてお預けください。

航空機の座席数	サイズ
100席以上	3辺の和 115cm以内 (55cm×40cm×25cm以内)
100席未満	3辺の和 100cm以内 (45cm×35cm×20cm以内)



手荷物検査機にサイズを確認するゲージを装着します。
規定を超えたお手荷物は保安検査ができなくなります。





ANA's Data

● 会社概要 (2009年9月30日現在)

商号	全日本空輸株式会社 All Nippon Airways Co., Ltd.
設立	1952年12月
本社所在地	東京都港区東新橋一丁目5番2号
資本金	2,313億8,178万4,228円
従業員数	14,388名

● 役員 (2009年10月31日現在)

取締役会長	大橋 洋治	
代表取締役副会長	山元 峯生	
代表取締役社長	伊東 信一郎	
代表取締役副社長 執行役員	長瀬 眞	
	森本 光雄	
専務取締役 執行役員	日出間 公敏	
	岡田 圭介	
	洞 駿	
常務取締役 執行役員	篠辺 修	
	中村 克己	
	井上 伸一	
取締役 執行役員	竹村 滋幸	
	丸山 芳範	
	殿元 清司	
	片野坂 真哉	
社外取締役	木村 操	
	森 詳介	
監査役	伊藤 博行(常勤)	四十物 実(常勤)
社外監査役	梶田 邦孝(常勤)	松尾 新吾
	近藤 龍夫	
上席執行役員	菊池 克頼	浅川 修
	中村 昭彦	五嶋 八洲雄
	金澤 栄次	西村 健
	小林 克己	岡田 晃
執行役員	小林 俊一	佐藤 信之
	内園 幸一	矢口 秀雄
	長谷川 昭彦	志岐 隆史
	四分一 英幸	小川 正人
	幸重 孝典	藤木 悟
	稲岡 研士	小澤 美良
	浅野 文郎	河本 宏子
	長峯 豊之	

● 株式の状況 (2009年9月30日現在)

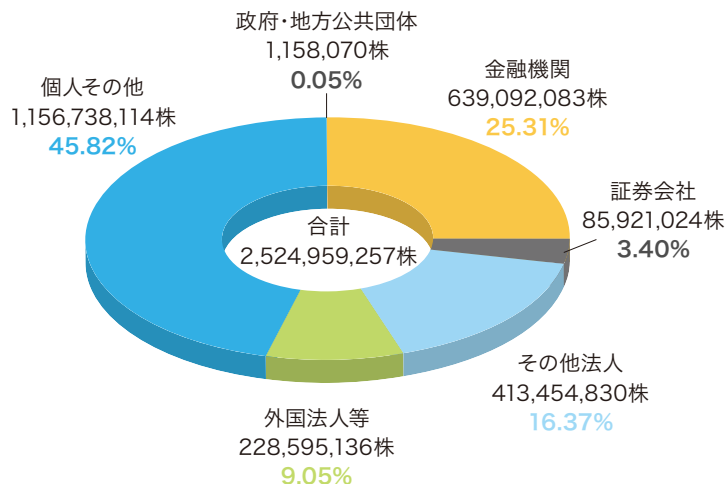
発行可能株式総数	39億株
発行済株式総数	25億2,495万9,257株 (2009年3月末より5億7,500万株増) 発行済株式数の増加は2009年度上半期の増資によるもの
株主数	355,025名(2009年3月末より65,108名増)

● 大株主 (2009年9月30日現在)

(千株未満切り捨て)

株主名	所有株式数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	80,195千株	3.18%
名古屋鉄道株式会社	71,982千株	2.85%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	64,839千株	2.57%
メルリリンチ日本証券株式会社	43,247千株	1.71%
東京海上日動火災保険株式会社	40,397千株	1.60%
三井住友海上火災保険株式会社	34,770千株	1.38%
全日空社員持株会	31,259千株	1.24%
日本生命保険相互会社	30,681千株	1.22%
株式会社三井住友銀行	26,820千株	1.06%
株式会社みずほコーポレート銀行	26,753千株	1.06%

● 株主別所有株式の状況 (2009年9月30日現在)





ANAの株主優待サービス

2009年12月1日現在

● 株主優待のご案内

発行基準日※	発送日	①ご搭乗優待	②グループ優待
3月31日	5月下旬 発送	株主優待券 有効期間6/1～翌年5/31	ANAグループ優待券上期分 有効期間6/1～11/30
9月30日	11月下旬 発送	株主特別優待券 有効期間12/1～翌年5/31	ANAグループ優待券下期分 有効期間12/1～翌年5/31

※ 株主優待発行基準日

- 新規に株式をご購入される方は、**発行基準日の4営業日前までに**証券会社でご購入手続きをお済ませください。次回(2010年5月発行分)は、**2010年3月26日(金)**が権利付最終日となります。**(注)**
- 複数の証券会社をご利用の場合、届出住所と株主名が同一であれば、お一人の株主として所有株式を合算(名寄せ)した上で取り扱いいたします。なお、届出住所または株主名が異なる場合は、別々の株主として登録されます。

①国内線ご搭乗優待

1,000株以上ご所有の株主の皆様は、ANAの国内営業全路線でご利用いただける「**株主優待券**」と「**株主特別優待券**」を発行いたします。

優待券1枚で、ANAの国内営業全路線片道1区間を、ご搭乗時片道(普通)運賃(小児の場合は小児運賃)の50%割引でご利用いただけます。

「プレミアムクラス」を株主優待券・株主特別優待券でご利用の際は、一般席の片道(普通)運賃の50%割引に所定の金額を追加してのご利用となります。

※ ご予約、空席、運賃等に関しては、国内線予約・案内センターまたは、ANAホームページ・携帯サイト(www.ana.co.jp)でご照会ください。



株主優待券・株主特別優待券 発行枚数表(1枚未満の端数は切り捨て)

ご所有株式数	【発行基準日 3月31日】 株主優待券 (5月下旬発送) 6/1～翌年5/31まで有効	【発行基準日 9月30日】 株主特別優待券 (11月下旬発送) 12/1～翌年5/31まで有効
1,000株～1,999株	1枚	1枚
2,000株～2,999株	2枚	2枚
3,000株～3,999株	3枚	3枚
4,000株～9,999株	4枚+4,000株超過分 2,000株ごとに1枚	4枚+4,000株超過分 2,000株ごとに1枚
10,000株～999,999株	7枚+10,000株超過分 4,000株ごとに1枚	7枚+10,000株超過分 4,000株ごとに1枚
1,000,000株～	254枚+1,000,000株超過分 8,000株ごとに1枚	254枚+1,000,000株超過分 8,000株ごとに1枚

②ANAグループ優待券

3月31日、9月30日に1,000株以上ご所有の株主様へ、お一人様1冊発行いたします。優待割引券は、冊子の後半にとじ込んでいます。

- IHG ANA共同ブランドホテル・ANAホテルでのご優待
・宿泊(ベストフレキシブル料金※の20%割引券) 6枚
・レストラン・バー飲食(10%割引券) 5枚



※ ベストフレキシブル料金とは

ご予約日やご滞在の日程によって料金が変動するお得な変動型のご宿泊料金です。料金について詳しくは東京予約センターまたは各ホテルへお問い合わせください。

● 国内・海外パッケージツアー商品のご優待

- ・ANAハロートゥアー(海外)商品(7%割引券) 2枚
- ・ANAスカイホリデー(国内)商品(7%割引券) 2枚
- 空港内売店・免税店でのお買い物(10%割引券) 5枚



● 通信販売カタログ商品(7%割引券) 5枚

● 「武蔵の杜カントリークラブ」ゴルフプレー料金のご優待割引券 4枚

● 「ANAダイヤモンドゴルフクラブ」ゴルフプレー料金のご優待割引券 3枚

※ なお、ここに記載した「ANAグループ優待券」の内容は2009年下期発行のものであり、今後変更になることもございます。

● ANA株主優待 Q&A

Q 「株主優待券」と「株主特別優待券」の違いは何ですか？

A 発行枚数、使用方法是同じですが、有効期間の設定の違いで、名称を区別させていただいております。

Q 優待券は株主の家族や知人でも使うことはできますか？

A 優待券は無記名式ですので、株主以外の方でもご利用になります。

Q 搭乗優待券利用者に座席数等の制限はあるのですか？

A 座席数の制限や予約受付期間等の制限はありません。

Q 搭乗優待券はゴールデンウィーク、夏休み、年末年始でも使えますか？

A ご搭乗になれない期間はありません。空席があれば、有効期間内はいつでもご利用になれます。

Q 搭乗優待券は国際線に使えますか？

A 国際線ではご利用になれません。

Q 旅行商品の優待券は何人まで利用できますか？

A ANAハロートゥアー、ANAスカイホリデーともに、それぞれ優待券1枚で5名様までご利用になれます。

(注)権利付最終日が変更になります

東京証券取引所、大阪証券取引所の規則改正に伴い、2010年の期末(3月末) および中間期末(9月末) より優待券等の権利付最終日が基準日の5営業日前から4営業日前に変更となります。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会 基準日	毎年4月1日から3カ月以内に開催 定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金受領確定日 毎年3月31日 ※中間配当金制度は採用していません。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 株主優待券割当確定日 毎年3月31日および9月30日
単元株式数 公告の方法	1,000株 当社のホームページに掲載します。 ANA投資家情報 検索
証券コード	ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。 9202

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更などのお届出およびご照会の際は口座のある証券会社あてにお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先(通話料無料)	0120-176-417 (平日9:00～17:00、土・日・祝・12/31～1/3休み)
ホームページ	住友信託銀行証券代行部 検索

● 株主インフォメーション

ANA VISION (第60期第3四半期のご報告)・株主優待券・ANAグループ優待券(上期分)のご送付について

2009年9月末の全株主様を対象に「ANA VISION」を2010年3月初旬に発送予定です。

2010年3月末1,000株以上ご所有の株主様に株主優待券・ANAグループ優待券(上期分)を2010年5月下旬に発送予定です。

トピックス

12月1日、「ANAモヒカンジェット」が20年ぶりに復活します!

運航等の詳細は、<http://www.ana.co.jp/mohican> をご覧ください。

1969年から20年にわたり日本の空に就航したANAモヒカンジェット。当時としては画期的なデザインが話題を呼び、若々しいANA機のイメージとして定着しました。誕生40周年を迎える本年、夢多き当時を思い出していただこうと、ボーイング767型機にこの懐かしいカラーリング(塗装)を施しました。機体カラーリングのリバイバルは日本では初めてで、2013年まで日本の空を飛び回ります。

※ 復刻した「ANAモヒカンジェット」のイラスト入りクオカードを株主アンケートにご回答いただいた株主様に抽選で差し上げます。詳しくは裏表紙をご覧ください。



飛行中のボーイング737型機(当時)



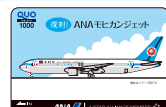
ANA VISION 2009

2009年11月発行

アンケートにご協力ください！ アンケート実施期間 2010年1月12日(火)まで

ご回答いただいた株主様の中から抽選で1,000名様に、クオカードまたはANAマイルをプレゼントいたします。

今後の株主サービスの参考とさせていただくため、インターネットによるアンケートにご協力をお願いいたします。集計結果は次号の「ANA VISION (第60期第3四半期のご報告)」誌上で、ご報告させていただく予定です。



ANAモビカンジェットのイラスト入りクオカード

アンケートでクオカード1,000円分または1,000マイル※1をお選びください。

※1 マイルの加算は株主様ご本人がAMC (ANAマイレージクラブ) 会員の場合に限らせていただきます。

※2 当選者の発表は2010年1月末のクオカードの発送または同年2月末のANAマイルの加算をもって、かえさせていただきます。

アンケートサイト(画面)への接続方法

方法① Yahoo!やGoogleなどの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出す方法

株主ひろば 検索

URL:kabuhiro.jp

方法② ANA投資家情報サイトを呼び出し、「ANA VISION アンケート ボタン(画面右下)」から、アンケートサイトに移動する方法

ANA投資家情報 検索

URL:www.ana.co.jp/ir



ご回答方法



アンケートサイト(kabuhiro.jp)
画面中央の入力ボックスに

アクセスナンバー(ご送付の第2四半期報告書をご覧ください)
を入力して、回答画面にお進みください

株主ひろば

上記プレゼントとは別にアンケート終了後、株主ひろばメンバーにご登録いただいた方、および株主ひろばメンバーとしてご回答いただいた方には、**抽選で500名様に500円分のクオカードが当たるチャンス**があります。

ご回答の操作方法などのお問い合わせ先

株式会社アイ・アール ジャパン 株主ひろば事務局

0120-677-174 E-mail:inquiry@kabuhiro.jp

平日 10:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00、土・日・祝・12/25・12/29 ~ 1/3休
※インターネットをご利用できない場合は、アンケート用紙を郵送しますので、上記にご連絡をお願いいたします。

このアンケートは、諸費用(郵便料金などの)削減と集計作業の迅速化を目的として、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しております。

全日本空輸株式会社 ホームページ <http://www.ana.co.jp>

〒105-7133 東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター

総務部 株主担当 電話03-6735-1001 (受付時間 平日 9:00~12:00 / 13:00~17:00、土・日・祝・12/29 ~ 1/3休)



本冊子は環境に配慮した用紙、ならびにインクを使用しています。